

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 10月号

1. 樹齢115年の梨を東郷小3年生が収穫！

9月10日、湯梨浜町立東郷小学校3年生が、同町の梨「二十世紀」の古木「百年樹」の園内で収穫体験をした。農業改良普及員が収穫方法をレクチャーし、「百年樹」を管理する生産者グループ「百年会」のメンバーやJ A鳥取中央の職員と収穫した。



児童たちは5月から小袋掛け、大袋掛け作業もしており、大袋掛けではイラストや名前を描いた袋を梨にかぶせて、この日の収穫では自分が描いた袋を探しながら収穫した。

玉太りもよく、糖度も最高の出来上がりに、児童はうれしそうに収穫をしていた。初めて体験したという児童は、「すごく大きく育った梨がたくさんあった。家族みんなで食べたい」と笑顔で話した。

2. ブロッコリー産地拡大へ！

J A鳥取中央は9月14日、ドローン（小型無人飛行機）による防除作業の実演会を琴浦町で開催した。従来の動力噴霧機を使う防除は、1ha当たり約5時間かかるところ、ドローンでは約15分で散布を完了し、省力性を確認した。



実演会には、生産者、鳥取県、農薬開発会社ら50人が参加。使用したドローンは自動航行ができ、操縦が不要で時間短縮に加え、人件費削減にもつながる。

実演を見たブロッコリー生産者の寺岡さんは「散布技術もいらず、広い面積に有効だ」と可能性を感じていた。ドローンでの防除は散布むらが課題だが、実演したほ場で防除効果を検証する。

同J Aは、令和3年度から「シン・地方創生総合戦略」で、ブロッコリーの生産基盤の拡大に取り組んでいる。管内全体で217haから令和5年度までに2倍以上の500haに生産面積を拡大することを目標にしている。

3. 満菜館でJA広島中央のブドウを販売！

JA鳥取中央は、9月19日から「JA中央サミット」で連携するJA広島中央のブドウを倉吉市の直売所「旬鮮プラザ満菜館」で販売した。

今回販売したのは、広島県東広島市の「すざわ果樹園」で栽培する「伊豆錦」や「黒王」の黒ブドウなどで、鳥取県内では珍しい品種ということもあり、訪れた来店者は足を止めて買い求めている。特設ブースでは「すざわ果樹園」の可愛らし



いイラストの化粧箱や、JA広島中央のポップを掲示した。来店者からは「一粒が大きくておいしそう。珍しい箱で贈り物に喜ばれそう」といった声が上がっていた。

「JA中央サミット」は中四国管内のJA名に「中央」が付く5つのJAで組織し、事業連携で農業振興、地域活性化につなげている。サミットの交流は今年で3年目だが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により加盟JA間の人的交流会は行わなかった。県域を越えた特産物の交流を継続させることで農業振興を強化していく。

同JAの栗原組合長は「お互いの特産品を補完しあいながら、サミットの目的を果たし、それぞれの地域の味を楽しんでもらいたい」と話した。

以上